

オフセット・クレジット(J-VÉR)制度に基づく
温室効果ガス排出削減プロジェクト計画書別紙
モニタリング計画書

プロジェクト名	オルタステクノロジー高知によるCOF2を用いた温室効果ガス排出削減事業
プロジェクト代表事業者名	株式会社オルタステクノロジー高知

提出日 2012年 2月 3日

受理日 2012年 2月 3日

最終版提出日 2012年 2月 23日

I. 排出削減量の算定で考慮する温室効果ガス排出活動」(方法論項目3)

ベースライン排出量				
排出活動	排出活動の説明	排出源(設備等)	温室効果ガス	備考
SF6の使用	COF2ガスへの転換が行われなければ使用されていたSF6ガス	ドライエッチング装置	SF6	ドライエッチング装置とはSF6を主成分とするガスによって加工対象材料を電気化学的にエッチングする装置

プロジェクト排出量				
排出活動	排出活動の説明	排出源(設備等)	温室効果ガス	備考

- ※ 方法論の「3. 排出削減量の算定で考慮する温室効果ガス排出活動」に示される排出活動以外にも主要な排出活動がある場合には上記に記入すること。
- ※ 欄が足りない場合には追加して記入すること。

II. 算定式（方法論項目4～6）

1. 排出削減量の算定 ※方法論を参照し、以下に排出削減量の算定式及び値を記入する。

ER _y = BE _y					
1266 = 1266					
パラメータ	パラメータの説明	想定値	単位	想定根拠	実際の使用予定値
ER _y	年間の温室効果ガス排出削減量	1,265	tCO ₂ /年	2012年度生産計画	購買記録・使用実績データ
BE _y	COF ₂ ガスへの転換が行われなければ使用されていたと考えられるSF ₆ ガス起源の年間CO ₂ 排出量	1,265	tCO ₂ /年	2012年度生産計画	完成マザーガラス基板枚数

2. ベースライン排出量の算定 ※方法論を参照し、以下にベースライン排出量の算定式及び値を記入する。

$BE_y = \{ (BSP_{s,y} \div BGM_{s,y}) \times PGM_{c,y} \times (1 - RC_y) \times (1 - AE_y) \times GWP_{SF_6} \}$ $= \{ (1.134 \div 258,791) \times 241,680 \times (1 - 0.5) \times (1 - 0.9) \times 23900 \}$ $= 1,265.5$					
パラメータ	パラメータの説明	想定値	単位	想定根拠	実際の使用予定値
BE _y	COF ₂ ガスへの転換が行われなければ使用されていたと考えられるSF ₆ ガス起源の年間CO ₂ 排出量	1,265	tCO ₂ /年	2012年度生産計画	完成マザーガラス基板枚数
BSP _{s,y}	プロジェクト実施前の過去1年間のSF ₆ ガス使用量	1.134	t/年	2011年実績	購買記録・使用実績データ
BGM _{s,y}	プロジェクト実施前の過去1年間のアレイ工程終了後のマザーガラス製造量	258,791	枚	2011年生産実績	完成マザーガラス基板枚数
PGM _{c,y}	プロジェクトにより製造されたアレイ工程終了後のマザーガラス製造量	241,680	枚	2012年度生産計画	完成マザーガラス基板枚数
RC _y	ガスの反応消費率	0.5		方法論掲載のデフォルト値を使用	同左
AE _y	除害装置の除害効率	0.9		方法論掲載のデフォルト値を使用	同左
GWP _{SF6}	SF ₆ ガスの地球温暖化係数	23900	tCO ₂ /t	方法論掲載のデフォルト値を使用	同左

3-1. プロジェクト排出量の算定 ※方法論を参照し、以下にプロジェクト排出量の算定式及び値を記入する。

該当なし

3-2. プロジェクト排出量の算定 ※方法論を参照し、以下にプロジェクト排出量の算定式及び値を記入する。

該当なし

3-3. プロジェクト排出量の算定 ※方法論を参照し、以下にプロジェクト排出量の算定式及び値を記入する。

該当なし

※欄が足りない場合は適宜欄を追加して記入すること。

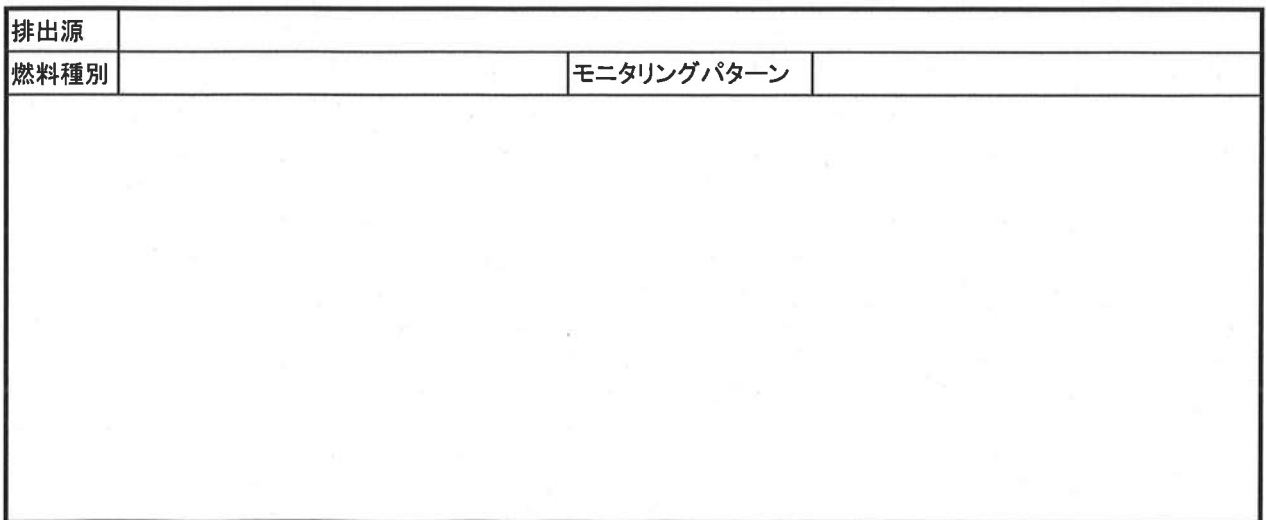
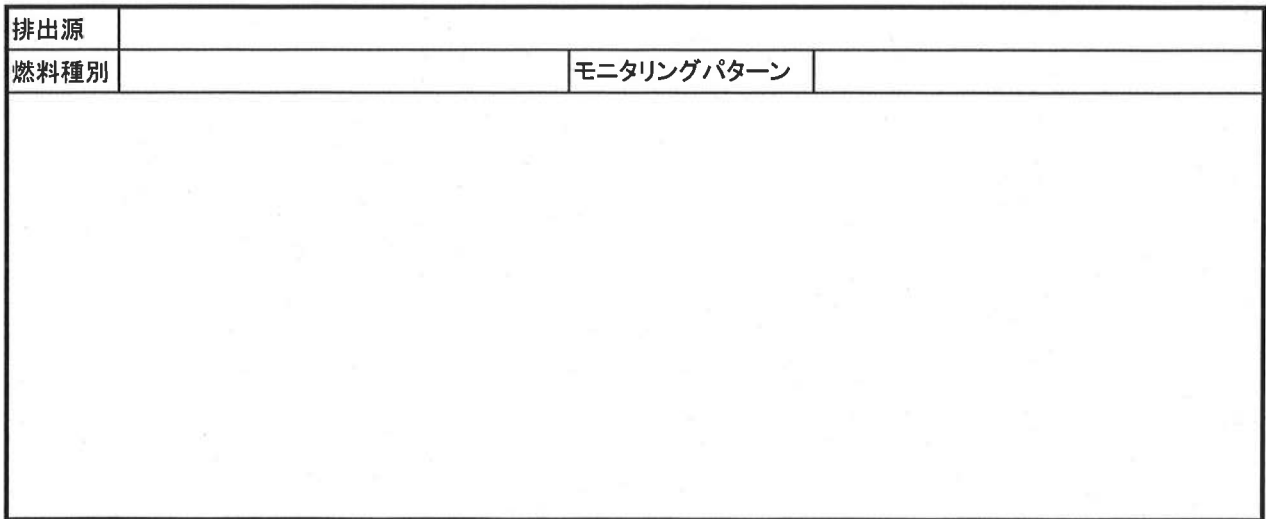
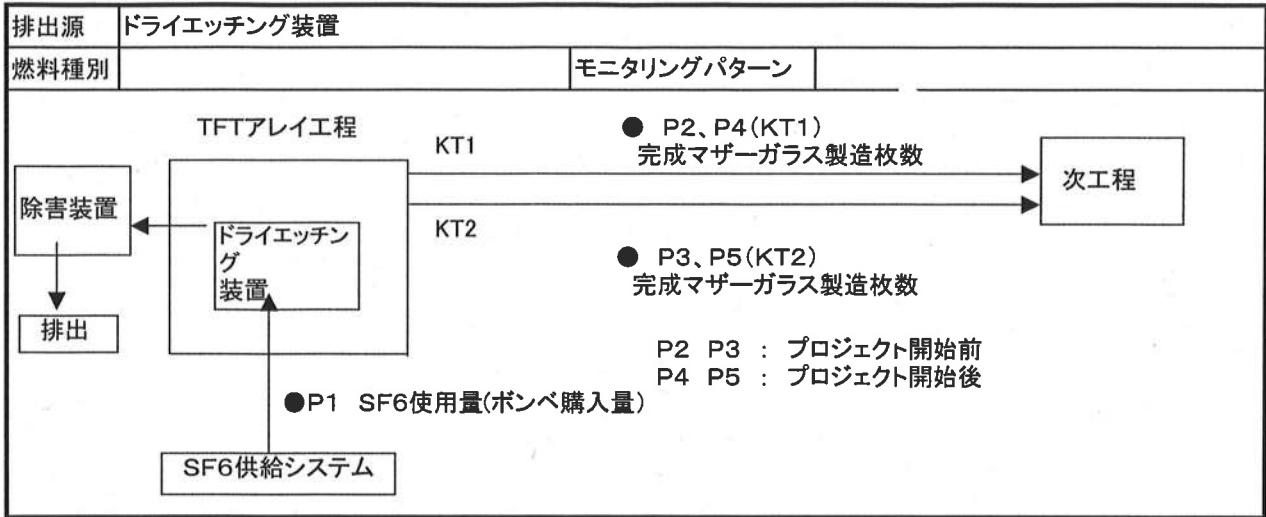
Ⅲ. モニタリング詳細－活動量－(方法論項目7)

モニタリング ポイントNo	パラメータ	燃料 種別	測定方法	モニタリング パターン	測定頻度	自社管理計量器の使用			精度レベル の確認	計画値 [単位]	備考
						計量器の種類	計量器の 精度管理	計量器の有効期限			
IVモニタリング フロー図に 記載した、モニタリング ポイントの番号 を記入	方法論に 記載されて いるパラ メータを記 入	モニタリングの対象とな る燃料の種類を記入 「その他」を選択した場 合には備考欄に具体 的な燃料名を記入	測定方法・データ把握方法を記入	モニタリング方 法ガイドライン 「第Ⅱ部1.1モニ タリングポイント とモニタリング パターン」を参 照しA～Cより選 択	測定頻度を記入	自社管理計量器を使 用している場合、計量 器の具体的種類を記 入	計量器の検定有無 や定期検査等に関 する情報を記入	計量器の有効期 限を記入	モニタリング方法 ガイドライン「第 Ⅱ部1.3精度確保 について」を参照 し、要求精度レ ベルと自己精度 レベルを確認	想定排出削減量 の算定に使用し た値を記入	特筆すべき事項があれば記入
1	Q個燃	一般炭	自社管理計量器にて把握する	B:実測	月1回	ベルトスケール	検定付メータ	2014/5/1	○	500t	
P1	BSPs.y	その他	ガスボンベ交換記録及び購買データ	A-2:購買量+在庫	月1回					1.134 トン/年	SF6購買量1260kg×90%(プロセス供給率)
P2,P3	BGMs.y	その他	アレイ工程完成ガラス枚数(開始前)	B:実測	ロット毎	カウンターによる自動記録	自主点検(毎月)			258.791 枚/年	製造ライン上のセンサーによりカウント
P4,P5	PGMc.y	その他	アレイ工程完成ガラス枚数(開始後)	B:実測	ロット毎	カウンターによる自動記録	自主点検(毎月)			241.680 枚・年	製造ライン上のセンサーによりカウント

※モニタリング方法ガイドラインや方法論に記載されていない独自手法またはデータを用いてモニタリングする場合は、その方法を採用する合理的根拠やデータの出典を上記の表又は「備考」シートで説明すること。

IV. モニタリングフロー図

排出削減量の算定に使用するモニタリングが必要なパラメータについて、燃料、電力等の受入から消費までの流れを記載するとともに、各モニタリングポイントを明示する。



※使用するパラメータを全て記載すれば、必ずしも個別パラメータごとにフロー図を作成する必要はなく、一つのフローで全体を示しても良い。
 ※記入枠は必要に応じてコピーして増やすこと

V. モニタリング体制図

モニタリング体制図を以下に記載すること(詳細については、モニタリング方法ガイドライン「第I部2. 2モニタリング体制の構築」を参照のこと)。

株式会社オルタステクノロジー高知(プロジェクト代表事業者、排出削減実施事業者)

モニタリング報告書の承認 ・ 排出削減量算定責任者

製造部・部長(環境管理責任者)



モニタリング報告書の作成 : 製造部施設課・課長



項目	SF6使用量(Kg)	完成マザーガラス製造枚数(枚)	
		P2・P3	P4・P5
モニタリングポイント	P1	P2・P3	P4・P5
管理・報告者	施設課・課長	TFT製造課・課長	TFT製造課・課長
記録者	施設課・係長	TFT製造課・係長	TFT製造課・係長
測定者	施設課・係員	TFT製造課・係員	TFT製造課・係員

記録類は環境マネジメントシステムにおいて環境記録として管理される

VI. 品質保証(QA)及び品質管理(QC)

データの品質を確保するための仕組みとして、データ収集・集計等体制の整備と個別データの信頼性の向上について以下に記載すること。例えば、バイオマス燃料のモニタリングにおける手順や算定基準に関する社内研修や、発熱量・含水率等の計量を行う計量器の精度管理等が想定される(詳細については、モニタリング方法ガイドライン「第I部2. 2モニタリング体制の構築」を参照のこと)。

(1) 教育訓練

モニタリングにおける手順、算定基準等について教育を実施する。

具体的には、オフセット・クレジットの説明、社内のモニタリング体制の説明、モニタリング方法の説明、モニタリングをふまえたベースライン排出量についての説明をおこなう。

(2) 情報の保管

排出削減量を算定するために用いられるすべてのデータを文書化し、記録として保存する。

これらのデータは、検証機関が排出削減量の算定結果を再計算(再検証)できるために用いられる。記録の保管期間はプロジェクト終了後3年間とする。

(3) データの確認

データの信頼性を高めるために、TFT製造課において記録されるマザーガラス完成実績データ、施設課において記録されるガス使用量(シリンダーキャビネット交換記録)、生産管理課において保管されるガス購入に係る購買データなどは、毎月毎に担当者及び担当課長のチェック及び承認して保管します。

(4) 内部監査

データモニタリングに関する仕組みは作成された報告書に対して品質保証室により報告書作成毎に監査する。

(5) 測定機器の維持・管理

完成ガラス枚数をカウントするカウンターについて毎月自主点検を実施する。

※独自の様式や手順書等を作成している場合には本様式に添付しても良い。

VI. 備考

モニタリング項目等の説明で追加説明が必要な場合は、以下に詳細を記述する。